

# 文学研究科 博士課程前期課程

## 2.DPを含むアセスメント結果の活用

方法・指標	実施時期	対象年次	結果の活用
年次研究計画書	4月期入学者:4月提出 9月期入学者:10月提出	修業年限内の全学年次生	学生が自らの研究を主体的に計画し、学修の進捗状況を振り返る機会にするとともに、文学研究科の専任教員内でオンライン閲覧することにより、指導教員による指導と副指導教員による補助的指導の相乗効果の程度を測り、組織的・複眼的な指導体制の構築に努めている。
年次研究成果報告書	4月期入学者:2月提出 9月期入学者:7月提出	修業年限内の全学年次生	学生が自らの研究を主体的に遂行し、学修の進捗状況を振り返る機会にするとともに、文学研究科の専任教員内でオンライン閲覧することにより、指導教員による指導と副指導教員による補助的指導の相乗効果の程度を測り、組織的・複眼的な指導体制の構築に努めている。
修了査定資料	9月期修了者:9月 3月期修了者:2月	修了年次生	修了年次生の単位修得状況、論文成績をもとに文学研究科委員会で修了査定を行い、各学生の学修成果におけるDP1およびDP2の達成度を定性的に測定することで、翌年度以降の教育効果の改善に努めている。
副専攻EU-日本学教育研究プログラム修了認定資料	9月期修了者:9月 3月期修了者:2月	修了年次生	文学研究科委員会で副専攻EU-日本学教育研究プログラム修了者の認定(報告)を行い、文学研究科に設けられた特別プログラムにおけるDP3の達成度を定性的に測定することで、翌年度以降の教育効果の改善に努めている。
日本語教師養成講座(大学院コース)修了認定資料	9月期修了者:9月 3月期修了者:2月	修了年次生	文学研究科委員会で日本語教師養成講座(大学院コース)修了者の認定(報告)を行い、文学研究科に設けられた特別プログラムにおけるDP3の達成度を定性的に測定することで、翌年度以降の教育効果の改善に努めている。
進路調査資料	9月期修了者:9月 3月期修了者:2月	修了年次生	修了生の進路を把握し、DP3の達成度を定性的に測定することで、翌年度以降の教育効果の改善に努めている。
入学時・修了時調査資料	5~6月(入学時調査) 3~4月(修了時調査)	1年次生(入学時調査) 修了年次生(修了時調査)	教学IRプロジェクトによるフィードバックを大学院FDとして行い、DPが達成されているかどうかを分析したうえで、分析結果をもとに、必要に応じて執行部および人事事務検討会議でのカリキュラム改善や学習環境の充実策を検討する。